

iPhone の活用(4) —カートリッジの負荷調整(1)—

1. はじめに

iPhono 導入記(2) では LP12 にセットした Ortofon SPU Synergy の負荷の調整を行いました。前報(3)で報告しましたアームの調整が終わったことから、iPhone との相性を試していないカートリッジについて LP12 にセットして試聴を行っていきます。今回は Ortofon SPU Synergy 以外の Ortofon SPU 系のカートリッジ について音質評価を兼ねて実施します。

2. カートリッジの負荷の調整の方法

今回使用したカートリッジは次のものです。

Ortofon SPU Royal N 写真①

Ortofon SPU GE 写真②

Ortofon SPU Classic G 写真③



SPU GE は以前から G シェルから取り出して直接 AC-300 II 用のシェル一体型アームに取り付けて使用していたのですが、元の G シェルを紛失したので、FR64S に取り付けるために Ortofon 製のシェルに取り付けました。

これらの負荷インピーダンスに関連する情報としては、Ortofon SPU Royal N では内部抵抗 6Ω ohms、Ortofon SPU GE では直流抵抗 2Ω という資料しか見つかりません。また、Ortofon SPU Classic G では Recommended load impedance として 10Ω 以上とあります。

これらの数値を参考に負荷インピーダンスを設定し、iPhono 導入記(2)以降に LP12 の調整も行ったことから Ortofon SPU Synergy 写真④も同時に使用し、このものをリファレンスとして聴きこんでいきました。なお、ターンテーブルは LP12、アーム

は FR64S でフォノケーブルは LINN のケーブル、iPhono からの引き出しにはリベラメンテを使用しています。

3. カートリッジの負荷の調整の試聴結果

まず、Ortofon SPU Synergy 自体の印象が、前報(3)でも述べたように LP12 の調整で随分と変わってきており、調整前の同じ盤を聴いた印象から全体がヴェールを1枚剥いたようにクリアになり、間接音もはっきり聴き取れるようになりました。

Ortofon SPU Royal N では SPU Synergy と同様 22 オームの負荷インピーダンスで問題なく、SPU Synergy よりもっと繊細な感じで細部を描きわけることができます。

Ortofon SPU GE では SPU Synergy と同様 22 オームの負荷インピーダンスで問題なく、今回久しぶりに聴きましたが、ややレトロな雰囲気はあるものの、意外にフレッシュで太目の厚めの音は Ortofon の原点的な音がします。

Ortofon SPU Classic G では SPU Synergy と同様 22 オームの負荷インピーダンスで問題なく、SPU GE に近い音はするものの G シリーズの復刻版だけあって少し現代的な音に変わっています。

ここで元の SPU Synergy に戻すと SPU Classic G をさらに現代的にモディファイしたような音で G シリーズの中では明晰、かつ押し出しのある音がします。

4. まとめ

LP12 と FR64S の調整、および iPhono の負荷インピーダンスの調整の結果、Ortofon SPU 系のカートリッジの印象が随分と変わってきており、ある意味個々の Ortofon 臭さが無くなってニュートラルな高忠実度の再生音を聴かせてくれるようになりました。

以上